

# 第3回三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業検討委員会(議事録)

【日 時】 令和5年11月14日(火)19:00~20:15

【場 所】 役場委員会室

【参加者】 別紙のとおり

【内 容】 次のとおり

## 1 開会(青木地域振興監兼企画健康課長)

ただいまから第3回三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業検討委員会を始めさせていただきます。開会にあたりまして委員長であります、副町長の赤坂からご挨拶をいたします。

## 2 委員長(副町長)あいさつ

皆さんこんばんは。ご多忙のところ、皆さんありがとうございます。皆さんには温泉を活用した健康まちづくり事業を構想づくりから関わっていただき、今年度は基本計画づくりということで、基本計画づくりもかなり佳境に入って参りました。この事業に取り組んでいるということをおいいますと、町民の方、いろんな方から「早く早く」という期待の声があるということですので、注目の事業だと思っております。この事業に取り組むにあたっては、効果的な事業となるよう、皆さんのお知恵をお借りできればと思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

## 3 進捗報告・意見交換

地域振興監	本日は会議室が非常に不足をしておりました関係で、ちょっと狭いかもかもしれませんが、逆によく声が届くということもございます。狭い中でございますが、どうぞよろしくお願ひします。それでは進行を委員長へお渡しをしたいと思います。よろしくお願ひします。
委員長	それでは次第に従いまして進めさせていただきます。3番の進捗報告と意見交換についてということで、事務局の方から説明をします。
事務局	<p>資料1、事業の進捗報告ということで、ご報告をさせていただきたいと思ひます。今、皆さんにお集まりをいただいておりますこの検討委員会、温泉を活用した健康まちづくり事業検討委員会のまずは振り返りです。第1回の検討委員会につきましては、今年の4月18日に初回ということで、会を開かせていただきました。そこでは、昨年からの継続した検討事項でございました基本構想について、委員の皆様からご意見をいただきました。その後、第2回ということで、こちらは書面でございますが、会を開かせていただき、改めて皆さんから意見をちょうだいさせていただきました。そして7月になりましたけれども、基本構想の策定ということで皆様宛にご報告をさせていただきました。これがこの事業の検討委員会の振り返りということのご報告となります。</p> <p>続いて報告①ということで説明をさせていただきます。今年度ですが、この会で、本日の意見交換の内容にも関わります基本計画を策定していこうとしているところでありますが、計画における基礎的なデータの収集だとかの補助業務について、7月に民間業者と契約を結んで、現在調査を進めているところでございます。アンケート調査やヒアリング調査については、すでにこの秋に関係機関の皆さんだとか町民さんだとかに協力をさせていただいて実施しております。このほかにも、施設の候補地選定における基礎調査というようなことも予定をしております、これら調査を進めていって、計画の基礎データ或いは根拠となるような、そういったものをつくり出していきたいと考えております。</p> <p>続いて報告②でございます。こちらは温泉と健康づくりを連携させる取り組みのものとなります。こちらについては、基本構想で示さしていただいた柱のうちの一つでありまして、今年度についてはスポーツ庁の補助事業を採択させていただいて、試験的な面もありますけれども、実施に向けて進んでおるところです。今年度2つの取り組みを進めて参ります。一つ目ですが、温泉運動浴というところでございますが、こちらは、三朝温泉病院さんと連携をさせていただいた取り組みでございましてすでに11月8日、三朝温泉病院</p>

	<p>さんの中にある温泉プールを利用させていただいて、リハビリテーションのスタッフさんの方にご協力させていただいて、指導だとか、運動だとか健康に繋がるような取り組みをさせていただいておるものです。二つ目になります、温泉フィットネス 湯ラックスと表記しておりますが、こちらについては、温泉旅館さんを会場にさせていただいて、そこでフィットネス体験を行っていただくとするもので、こちらについては、12月からスタートをしていただくということにしています。これが二つの取り組みを通して、温泉と健康づくりを連携させる取り組みを、試験的ではまだまだありますけれども、着実に発展させていって、来年度だとかに向けて参りたいと考えています。参考までに資料1の次のページから温泉運動浴と湯ラックスのチラシをつけておりますので、よろしければ、ご覧いただければと思います。以上が事業の進捗報告でございます。</p>
<p>地域 振興 監</p>	<p>それでは、「温泉を活用した健康まちづくり事業」基本計画（骨子案）について説明します。資料2をご覧ください。基本計画につきましては、この春に策定しております「基本構想」に対し、構想をより具体的にするためのものとして整理をしているもので、これによって次年度以降の取組の出発点とするためのものです。ソフト事業であります「Ⅰ “三朝温泉”の健康効果を知ってもらう」取り組みですとか、「Ⅱ温泉と健康づくりを連携させる」取り組みについては、既に令和5年度より実証的な取組を含めてスタートしておりますが、基本計画のなかで整理をいたします。また、ハード事業となります「Ⅲ入浴等施設を整備する」につきましては、基本計画をもとに、令和6年度には基本設計に着手したいと考えております。本日は、構想から絞り込んだ骨子案についてお話をし、皆様のご意見を頂戴したいと考えております。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、最初にソフト事業について説明いたします。まず、「三朝温泉」の健康効果を知ってもらう です。ここでは、三朝温泉の効果等に対する知識を得ることで、温泉入浴が健康や癒しにつながることをお示しし、入浴に向けた流れ、動機につなげようとするものです。4つの取組を掲げようと思います。（1）三朝温泉ミュージアム（温泉資料館）の開設三朝温泉の健康効果、効能、歴史、研究の成果等をまとめて展示するミュージアム（展示館）を開設し、温泉のもつ健康効果やその素晴らしさに対する学びの場を提供します。この施設は、入浴施設と併設することにより、町民はもとより、観光客にとっても魅力ある空間となるため、相乗効果が見込めますし、岡山大学で研究していただいている「温泉の効能」についても、発表の場としていくこともできることも想定しており、岡山大学との結びつきを強める点でも意味のある取組になります。三朝温泉の魅力の総合的発信につなげたいと考えます。また、合わせてデジタル空間でのミュージアムも開設し、時間と場所にとらわれない学びの場所とし、情報発信の機能強化につなげたいと考えます。</p> <p>（2）ラヂムリエ制度の普及・拡大については、三朝温泉現代湯治推進協議会の協力を得ながら、町民による温泉ラヂムリエの資格取得を推進し、町民の運動・スポーツと温泉効果や入浴方法に対する理解を深め、事業のPRや目的を広めていくことを目指します。</p> <p>（3）「温泉入浴」を契機とした健康づくりの機運醸成（講座開設）、ここでは、現代湯治推進協議会や町民を含むラヂムリエとも連携し、健康相談や子育て相談、小中学校の教育活動、集落や地域での社会教育などを通じて「温泉を活用した健康講座」を開催していきます。</p> <p>（4）三朝温泉効果体験報告会の開催では、三朝温泉の効果については、学術的に裏付けのあるものと体験（経験）に基づくものに分かれます。ここでは、体験者の“ロコミ体験談”を集める仕組みを設け、医学的なエビデンスに加えて、体験者のリアルな経験談を蓄積し、情報の共有による好循環を通じて、事業の推進につなげます。この手の情報については、取り扱いに注意を要するとの指摘もございますが、一方で医学的な見地から見た場合に有効なヒントとなるケースもあるとのご意見もあり、効果をPRするための魅力的な手段として位置付けることができればと思っております。以上が柱1の“三朝温泉”の健康効果を知ってもらうことの取組です。</p> <p>次に、温泉と健康づくりを連携させる です。ここでは、温泉入浴と健康づくり、すなわち、運動して、スポーツして入浴するまたは、お湯につかりながら運動するといった流れを本格的に、プログラム化していきたいと考えます。</p> <p>（1）新しい健康づくり活動と温泉入浴の循環を構築するでは、今年度の「温泉運動浴と</p>

	<p>温泉フィットネス 湯ラックス」の実証活動につきましては、先ほど、進捗の報告で説明をしましたので、ここでは申し述べませんが、運動・スポーツ習慣化促進チーム会議でもみながら、またそのほかの取組を検討しながら、3年後には本格稼働につながるスタートメニューに仕上げていきます。</p> <p>(2) 健康づくり実践者に対するインセンティブの付与では、健康づくり活動に参加した方を対象として、入浴等施設利用料を割り引く、免除するなどして、健康づくり活動と温泉入浴の好循環を作り出したいと考えます。この点につきましては、先ほどの運動・スポーツ習慣化促進チーム会議でもご意見を伺いたいと思っております。</p> <p>(3) 健康アプリの開発と活用による健康づくり活動のバックアップでは、独自の健康アプリを開発し、健康づくり活動の実践者に対するインセンティブの付与を容易にし、仕組みの持続につなげるためのものです。スマホが普及し、高齢者であってもその取扱いが日常化してきており、健康アプリの定着を通じて高齢者のデジタルデバイドの解消に向けたきっかけにもできたらと思います。</p> <p>(4) スポーツ活動の推進については、スポーツが盛んなまちづくりを目指して、各世代におけるスポーツへの取組を活性化させ、スポーツ後の入浴習慣へと誘導します。「温泉を活かした健康まちづくり事業」をきっかけとして、スポーツ振興について働きかけを強めるためのきっかけにしたいと考えます。</p> <p>以上がソフト事業についてです。ここで、説明を区切りまして、皆様からのご意見をいただきたいと思っております。</p>
委員長	はい。一旦ここでちょっと切らせていただいて、皆さんからここまでのところでご意見をちょうだいできればと思います。感想でもご意見でもご質問でも何でも結構でございます。
深田委員	三朝温泉病院の深田です。ラヂムリエについてお聞きするのですが、今は実際に何人ぐらいの方がおられるのでしょうか。また、具体的な活動っていうのはどういうところで、どんなことをされるのかというのは決まっているのでしょうか。
御船委員	現在まででラヂムリエを取得された方は100名います。そして、リタイアした人とかもいろいろありまして、いま活動しているのは約70名です。基本的には、旅館に泊まれたお客様を対象に三朝温泉の効能効果を説明し、そして、より安全に利用していただく。それから、三朝温泉に滞在をされますので、どう過ごされるかということ、その人に合ったような形でご案内する、温泉コンシェルジュみたいなイメージをしてもらったらいいです。
深田委員	ありがとうございます。これは、今後は町民にも波及させていくというような感じで考えておられるのでしょうか。
事務局	そういう流れをいただきながら、町民の中からも、そういうラヂムリエさんを育成していければ、そこからまた出発発信ができるのではないかとこのように考えております。
御船委員	そういう希望を持っておられるのは、今推進されるというのは三朝町が持っておられるんじゃないかと。私たち、現代湯治推進協議会の元々のスタートとは違ってしますので、ご理解いただきたいと思っております。対象が違ってきますので。私たちはあくまでもこういう事業に少しでもご協力できる場所があればしますよ、という立ち位置っていうのはご理解しておいてください。私たちが推進するわけではないので。
委員長	言われることはわかりました。ここに拡大と書いてありますが、前も何かの会にもありましたが、町民の方が、意外と温泉のことを知らないということがやはり問題なのかなということがそもそもの発想にありまして、そういう意味で目的が違うのでということはおわかりますが、それがそのままなじむ形になるのかどうかは別として、要はそういった温泉に対する認知を町民の方に広げようということで、制度の趣旨がこのままはまるかどうかということとはちょっと検討していく必要があるかなと思います。
御船委員	以前の会でも町の職員さんも参加されていたときがあったんですね。で、そういった職員さんや保健師さんたちが、意外と温泉の効能や効果、目指す温泉のことについてご存知なかったっていう事実がわかったものですから、そういったところに、効能効果とか、そういった温泉の医学的なエビデンスっていうのは、岡山大学の山岡先生の指導をいただい

	<p>ています。そして、そして放射線、放射能については、日本原子力開発機構の方の研究員の方のご指導をいただいています。それから、実際のコンシェルジュとしての役目とか注意事項とか実際に当たるときには、私が講師をさせていただいております。私たちはあくまでも、医師資格ありませんし、看護師資格ありませんし、薬剤師の資格ありませんので、医師法とか、そういった薬の何とかそういった法律に触れないように、そのエビデンスをもとに、いろんなお話をさせていただいているってことは特に気をつけております。それで、この会の中にもうすでに出てきていますけど、エビデンスと、それから体験ということがあって、体験のところはいっぱい持っているんですね。実際いろんな医療に携わっている先生方からそういったエピソードを聞きたいんだよって話は実際にあります。それから応用して普段の生活の中での入浴とか温泉の利用の仕方ってことで、赤ちゃんのおむつかぶれなんて、温泉でちょっと洗ってあげたらすぐよくなるよ、みたいなことでもご存知なかったってことがあるんで。そういった意味で、協力できるところはいくらでも、ノウハウは提供しますよっていう話を以前させていただいたと思っています。</p>
深田委員	<p>先週から温泉病院で温泉運動浴が始まったと思うんですけど、詳細というかそれがどうだったかちょっとまだ聞いてはないんですが、応募されている人とかっていうのはどんな状況でしょう。</p>
事務局	<p>応募の状況でございます。温泉運動浴については、リハビリテーションスタッフさんと協議して6名ということのを定員とさせていただいたんですけども、防災行政無線等でPRしましたら、定員を上回った7名の方から、応募いただいたところです。全8回の取り組みということにしておりますけれども、皆さんが8回、何とか参加していきたいというような声をいただいていますし、実際に体験して帰られる際には、皆さんから「初めて入った」と、初めて温泉病院の中に入れていただいて、そういう施設も使わせていただいて、いろいろリハビリテーションスタッフさんも非常に熱心に指導していただいて、「またぜひ参加したい」というような感想をいただいたところです。</p> <p>湯ラックスについては、今募集をしているところですけども定員が、各コース20名ずつ、若い世代と、ミドル世代とシニア世代みたいな形で設定してるんですけども、今半分あたりかなというところです。引き続き募集活動を続けていきたいと考えています。</p>
委員長	<p>それでは、その他にはないようですので、ここは一旦先に進ませていただきます。それでは事務局の方から説明をお願いします。</p>
地域振興監	<p>続きまして、ハード事業について説明を再開いたします。ここでは、入浴等施設を整備するがテーマです。温泉を活用した健康まちづくり事業のセンター施設、核となる「新しい日帰り入浴施設」と運動・スポーツ活動の推進につながる「運動・スポーツ関連施設」についてそのビジョンをお話いたします。</p> <p>(1) 新しい入浴施設については、施設整備のコンセプトとして、3つの視点を掲げたいと考えております。①「世界屈指のラドン含有量を誇る三朝温泉」に相応しいグレードの入浴施設②「温泉を活用した健康まちづくり」のシンボルとなる拠点施設③町民が日常的に利用しやすい施設づくりです。</p> <p>①については入浴施設として利用者の満足度を、②については、①を達成したうえで、+αとなる機能、例えば、温泉ミュージアムや多目的運動スペースの整備、更には、厚生労働省が認定をします「温泉利用型健康増進施設」への対応などを想定しております。③につきましても、これまでのワーキングや基本構想を考えるなかで、住民の皆さんが最もよく言われたものの一つに「温泉に入りやす施設」ということがありました。この点につきましても、三朝温泉旅館の敷居が高いなどが要因ではと考えておりますが、住民のみならず観光客に対しても重要な視点であり、共有できるテーマと判断しましたので、コンセプトの一つに位置付けました。</p> <p>次に施設の規模・機能につきましても、先ほど述べました厚生労働省の温泉利用型健康増進施設(連携型)に認定される施設機能・内容を想定しております。この認定施設の概要について、チラシをつけておりますので参考にさせていただきたいと思っております。</p> <p>入浴施設及び付帯施設として、オンドル、熱気浴、飲泉、足湯といった温泉利用の体験ができる施設を併設し、体験を通じて、温泉街等にある施設利用へ誘導することを目指し</p>

	<p>ます。その他、多目的運動スペース、温泉ミュージアム、飲食スペース、休憩スペースなどを設置します。次に場所選定方針について、3つを柱に考えております。これは、先ほどのコンセプトとも関連しておりますが、①町民が利用する上での利便性があるエリア②運動・スポーツ施設（健康増進施設）とのアクセスが容易なエリア③町の温泉配湯が可能なエリアで検討を進めます。具体化には用地に関する検討も加味されることが想定されますが、基本計画では、ある程度絞ったエリアをゾーニングして示したいと考えています。</p> <p>次に施設の運営方法についてです。事業では、Ⅱ温泉と健康づくりを連携させるⅢ入浴等施設を整備する両方を事業の両輪として、機能させることにより事業効果に繋げることができることから、その点を考慮したなかで、入浴施設と運動施設をそれぞれ指定管理で運営するとともに、健康づくり事業については、別途、民間事業者のノウハウを生かすために、業務委託方式での事業展開も予定します。</p> <p>また、将来的な構想になりますが、入浴施設周辺地域の整備については、健康づくり機能や子育て機能を有する施設として、ポケットパークや子ども公園などを配置し「健康まちづくりエリア」として、訪れた方々がリラックスして過ごすことのできる空間として、入浴施設と連携した、一体的な空間整備ができればと考えます。</p> <p>他の温泉施設・運動施設との連携についてですが、具体的にはまだ固まっておりませんが、新しい日帰り入浴施設をセンター施設とするわけですが、地域には、入浴する機能だけでなく、様々な温泉効果、機能を持つ温泉施設が点在しております。それぞれの施設は、運営形態もそれぞれではありますが、その点を「個性的な温泉群」として評価し、利用者を限定するなかでも、可能な利用方法を提案することで、「温泉・健康まちづくり事業」を進めるうえでの力になるものと考えております。この点については、今しばらく時間をかけてまとめたいと考えます。</p> <p>最後のページをご覧ください。「温泉・健康まちづくり事業」全体のイメージを示しております。参考にしていただきたいと思えます。コンセプトに基づき新しい日帰り入浴施設を整備し、町民と観光客を受け入れながら、運動・スポーツと温泉入浴を連携させたプログラムを提供し、総合的に町民の「温泉を活用した健康づくり」を推進しながら、観光客の「健康づくりにつながる三朝温泉への関心」につなげ、満足感を引き出していきたいと考えています。以上がハード事業、Ⅲ入浴等施設を整備する についての説明です。</p> <p>この後、意見を伺うわけですが、特に入浴施設のグレードや規模、建設エリア等についてのご意見、また、グレードの高い入浴施設の事例など、皆さんが見聞きされて、興味をお持ちのところがございましたら、ご紹介いただければ、参考にさせていただきます。宜しくお願いします。</p>
委員 長	<p>それでは今説明がありました。施設の整備についての説明でございましたが、これについても何でも結構でございます。かなり抽象的な段階なので、今日ここで規模や場所やいろんなことを決定するものでもございませぬし、自由にどういった機能が必要かとか、どういった考え方でどうすべきかという、何でも結構ですので皆さんの方でご意見があれば</p>
岸田 委員	<p>鳥取県中部総合事務所の岸田です、よろしく申し上げます。このパンフレットによると、温泉利用の健康増進施設は全国で19ヶ所認定されてるとありますが、この施設を参考にしたいというか、比較というようなことはされておられるのでしょうか。</p>
事務局	<p>事例の対象としておりますのは、大分県の長湯温泉、竹田市でございますが、この取り組みと、北海道の一番北に星印が入っておりますが、稚内の少し南、豊富町というところの取り組みを具体的な事例として検討しております。そのうちの竹田市の長湯温泉の取り組みにつきましては、一昨年にこの事業を始めるときにまず訪問してお話を伺っておりますし、今年の10月下旬には、町の保健師と、それから温泉病院の理学療法士さんも入れながら、うちの福祉課の職員も一緒になって健康づくりの具体的な研修ということで訪問し、持ち帰っておるところでございます。今日は具体的なことは書いておりませんが、そこを一応モデルといいますか、そういったことに設定してやっているところでございます。</p>
岸田 委員	<p>そこはやはり、その2つが先進的だということだと思いますが、どういった取り組みが先進的であるということで選ばれたのでしょうか。</p>

事務局	<p>竹田市につきましては、もともと温泉を活用した健康づくりということで、メニューが市の健康づくり計画の中にきちんと表記がされておるとい町でございます。全国的にもそういったことがしっかり活動に生かされながら取り組んでおるといということで、全国の先進事例の中にも出てくるということ、それといわゆる温泉健康フォーラムみたいな全国大会での出会いもあっておりました、そのノウハウを手に入れようといということで、働きかけをこちらから強めておるところでございます。</p> <p>北海道の豊富町は同じフォーラムで出会いがあつておりますが、ここの温泉はちょっと個性的でございます。油、タールでございます、アトピーによく効くといことの中で、この制度を取り入れておられます。そういうことで、また、こうやって何ヶ所かございますので、その中でまた事例を持ち帰りたいとは思つておるところでございます。以上でございます。</p>
委員長	<p>竹田市は私も10年ぐらい前に一度行ったんですが、その前の市長さんが厚生労働省に対して、医療費控除の対象にこの温泉の利用の向上なりを対象になるようにいことと働きかけられたといようなこともあつて、その分野での先進といいますか、国に対しての働きかけとかもされていまして、全国的に有名なところですよ。三朝町にも一度来ていただいて、フォーラムをこの文化ホールで実施しました。</p>
沖田委員	<p>今更のことをちょっと聞くのですが、この基本計画全体のことで、これは対象者は誰ですか。</p>
事務局	<p>温泉を活用した健康づくりといことを一番掲げておりますので、この部分については、町民を対象にするとい明確なスタンスを持ちたいと思つておられます。ただ、日帰り入浴をするといことにつきましては、町民であろうが、観光客であろうがここは共通する点だといふに思つておられます。先ほどコンセプトを挙げておられますが、それなりのグレードそれなりの水準のものを作りたいと、逆にある程度自信が持てるようなものを作りたいと、それを町民にも提供し、観光客にも入つていただく、評価していただくといのが基本的な考え方だと思つておられます。</p>
沖田委員	<p>なぜ聞いたかといと、この基本計画って、一番は議会とか町民に説明するときに、やっぱり一番大事なものですよね。どう言ったらいいのかわからないといか、例えば観光客まで対象にしてくれとい意味で言つてるのではなくて、町民はもちろんですけれど、これから三朝町に入つてきてくれる予備軍、移住者予備軍ですよ。そういう方であったり、これから関係人口を増やしていく中でのそういった、具体的にどういいう言い方をしたらいいかわかりませんが、そういったところも見通して、今のうちに対象者は設定しておいた方が後々もやりやすいかなと思つて、このたび聞かせていただいております。</p>
地域振興監	<p>ありがとうございます。観光という言葉でくりましましたけども、いわゆる三朝を訪れていただく方のきっかけになる、また魅力に繋がるという視点で今言われた関係人口でありますとか、移住者等も視野に入れながらの計画づくりといこととやっていきたいと思つています。よろしくお願ひします。</p>
福田委員	<p>商工会の福田でございます。気軽に町民が日常的に利用しやすい施設とい言いながら片やこっちの方では、入浴指導といような形の施設があつて。これらをどうやって引つ付けていくのかなといのがちょっと違和感あるのですが。</p>
地域振興監	<p>入浴といものをどう捉えるかだと思つていまして。要するに入浴指導といのは、入り方、使い方と考えています。それで、例えばお湯を使った運動とかですね、そういったものは少し日帰り入浴施設とは離して考えたいといつた、おそらく言われるように一つの中でやるには少し無理があるのかなといことと思つていまして、例えば、今回モデル的な取り組みですが、温泉病院さんのプールを活用させていただいております。そういった部分はまだまだこれからでございますけれども、もし運動との棲み分けといのは必要かなといふには思つていまして、基本的に入浴といのは作法と、使うといことに対しての入浴指導とい意味合いだと思つていまして。</p>
福田委員	<p>単純に、町民が気軽に入ることができる温泉施設といのをポンと持ってきていますから、そういう人が極端にいと、毎日行つたときに、毎日同じこと言われなさいいけないみたいといイメージにとれちゃうので、そこはちょっと考える必要があるのかなとい</p>

	<p>思っています。</p> <p>もう一つ、この絵にあるように、トレーニングルームとそのスポーツセンターがどういうふうに繋がっていくのかなっていうのが見えないところです。同じようなトレーニングルームを作るのか、あるいはもう全くそれは作らずにスポーツセンターの方に作るのかなっていうのがちょっと見えないところがあります。</p>
地域 振興 監	<p>温泉施設の方に書いております。多目的運動スペースというのは、例えば今回で言うと、湯ラックスという取り組みの中でヨガでありますとかあいったものを想定して今やろうとしていますので、そういったものをイメージしています。逆にトレーニングとか、ジムとかというものは、現段階で申しますとスポーツセンターが現在ありますが、そういった部分の機能についてはスポーツセンターの中で整理した方が使いやすいかなと思っておりますので、空きスペースも含めて検討するかなというふうに思っているところでございます。</p>
福田 委員	<p>施設がちょこちょこあって、それを委託するというふうになっていますよね、これ。ちょっと大変かなっていう思いを持ちながら、片や温泉病院を利用したりという中、それらをまとめるところをきちんとしないと大変かなと思っております。それだけです。</p>
委員 長	<p>ありがとうございます。参考にさせていただきます。言われる通り施設が分散すると当然管理者も変わってきますし、それをどうやって連携させるのかというのは、なかなか個別には連携がうまくいくよう、その辺はちょっと工夫する必要があるかなと思います。ただ、1ヶ所にすべて新しい施設にすべての機能を入れるとなるとかなり規模も大きくなりますし、ランニングコストといえますか、いろんなことを考えると、それはそれでまた、なかなか大変だという事情もございますので、あるものは有効に利用しながらという姿勢で、それをどう連携するかという工夫はちょっとまだこれから検討の部分で、そういう意味では何が絶対必要で、何がどこに一緒にないといけないのかっていうようなことは、もう少し深く詰める必要があります。</p>
岩本 委員	<p>今、福田委員も言われた部分もあるんですけど、自分がふと思いつくのは三朝温泉で先ほどのいろんな運動とか温泉だとか指導もできて、温泉をすごく有効に、最大限効果を得るために利用したいという方も利用できる。または銭湯的な利用ですね、温泉をちゃんと使うことにもものすごく満足感を得られるという方もあると思いますので、何かそういったいろんな方が利用できるような、そういった要素がいろいろ組み込まれるといいのかなというなことを感想として思いました。</p>
委員 長	<p>今いただきました意見、多分町民が使われるとなると銭湯代わりじゃないですけど毎日浸かりに行く。ただ、その浸かりに行くことも、やはり健康を意識して、行くきっかけも健康を意識してということが大事になるのかなということもありますので、日々入浴指導を毎日受けるという話には、やっぱり日々の風呂のために使うだけというのが、町民の利用としては大きくなるのかなと。営業の部分がありますので、日帰り入浴施設としての運営、営業の主体はそこになるのかなと。</p>
御船 委員	<p>御船です。お客様全員がいろいろ解説してくれてと言われるわけでもないんですね。だからリクエストがあった人にはきっちり話をしますが、一般的には広く押しなべて関連施設の案内という意味で、お風呂の施設の案内から、やっぱり3段階ぐらい分かれています。来られた人みんなに話しをする必要もない。リクエストがあったらすればいいと。もっとより多く聞きたいってなったら手を挙げて、さらに知りたいとかになったら病院へどうぞとかね。そこはきちんと受け入れ体制を作って、理解をして、できる人を用意していることで対応できると思うんですけど、あんまり難しいことにしちゃうとつまらんですね。もう少し肩肘張らずに、こういう施設の中に、クイックマッサージとかね、お風呂に入ってマッサージしてもらったりとかできるような施設が欲しいですね。そういうこともしていただけると意外と利用が増えるんじゃないかなと。</p> <p>それからいつも町は町民に気を使って、いろいろ言われて、割引とか免除とか言われるんですけど、安くしたりタダにするっていうのは、コスト面で事業が続きません。それから、高付加価値のものがあるんだってことも理解してもらった方がいいと思います。で、ここに温泉運動浴ありますが、すごく理解とご協力いただくのは温泉病院さんですよ。</p>

	<p>そうすると、医療と、こういうふうにする時で、保険証を出さず使えるっていう時の行為で分けなきゃいいんですね。ですけど、どっちになっても病院さんの立場からすると、人件費が発生して施設を利用されているわけですから、コストがきちんとペイできなかったら、継続できないわけですね。そういうのをプールの利用の仕方なんかは行動浴と同じように申し込んでできますよっていう形になってくるとより幅が広がるんで、ちょっと魅力的だなと思って見ているんですね。そういった仕組みを行政がサポートしながら、うまく施設を利用して温泉病院さんもペイして儲かるようにしていくというような利用ができるようにしてくとか。一般の町民でも、病気じゃないけど、病気じゃなかったら保険証使えないじゃないですか。でも使えるというような仕組みっていうのを作っていただきたいですね、ぜひこの機会に。そこは町民だろうと観光客だろうと区別することないんじゃないかな。</p>
委員長	<p>大変参考になるといいますか、やはり実際に接客、入浴、運営のスタッフには、そういうことは参考になります。温泉病院のプール、拘泥湿布と同じようにですね、やはり病院にも、あまり負担にならない時、空いてる時などに、上手に有効活用をさせていただけるのであれば活用させていただきたいなというのが町の気持ちだということでもあります。</p>
足立委員	<p>観光協会の足立です。先ほどから、温泉病院さんや観光協会が指定管理を受けているスポーツセンターなどがいろいろ点在していてどうなのかっていうのもあるけど、やっぱりイメージ的に一つの入浴施設があって、点在しながら、連携していくっていうのはちょっと無理があるんじゃないかなと思います。一つ一つはいいのかもしれないですけど、副町長がさっき言われましたけど、風呂に入って帰るだけの人が圧倒的に多いと思うので。あまりいろいろな目的、いろいろなターゲットを目指しすぎると、それ自身がこける場合もあり得ると思います、設計的にですね、あるんじゃないかなと思うのと、やっぱり風呂は結構難しいです、設備的に。可能なら慣れた設計事務所をお願いしていただくと、施設管理自体の手間がすごく楽になっていくんじゃないかなと思いますけれど。</p>
委員長	<p>施設は言われる通り、元に戻りますけど。日々の風呂の利用がやはり一番多いとは思いますが、あまりいろんなものを一つの施設に詰め込みすぎるというのも、それはそれで、利用しにくい。やはりトレーニングする人はトレーニングするための施設に行くという、そこに行くというのがやっぱり主になると思うので。風呂は風呂と。そこはやはり施設の規模を考える際でも大事なかなと。</p>
湯川委員	<p>湯川です。私はいわゆるフィットネスですね、健康維持増進ということで、この施設をすごい期待はしているんですけども。でも、そうなるともう本当に大変だと思います。この温泉そのものはやっぱり銭湯代わりに町民の方が気楽に来られると思うんですけども、結構その50代60代の特に女性は、すごい健康にも関心持っておられますので、小さい部屋で軽いフィットネスなりヨガなりして、それで後は、お風呂に入って汗を流して帰る。そうすると、それは週に1回のフィットネス、或いは月に2回のフィットネスでもいいと思います。それは講師を頼むようなことも必要かもしれませんが、私はこの施設、事業の案が起こったときから、それをすごい期待しています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。今言った運動の施設はいわゆるスポーツジムの施設、またそういうたいわゆる少人数のフィットネスだったら、少し小さめのホールがあればできるのかなということはあると思います。</p>
前田委員	<p>私は最初この経過を見た時に、まだ基本計画の段階ですが非常にコンパクトというか、全体を網羅してうまくまとめられたなというふうに見ています。足立委員も言われましたけど、本来計画っていうのはターゲットを絞り切れるだけ絞り切ったほうが、良い計画ができるので、あまり町民の方も観光の方も、最初から入口を開けちゃうとそれこそ全部ぼやけていきますので、一番当初にあった通り、やっぱり町民のための温泉と健康。ここを絶対ぶらさずに、きちんと計画を作って、結果として、町民の皆さんが喜ぶ施設は当然に観光客も喜ぶということなのであって、そういう絶対の核のところはぶらさずにしていただきたいなというのがあります。温泉とフィットネス、確かに目的は違いますが、今回はその一つの施設で両方できる。でも利用される方は別に必ず両方利用しなくてもいいと。どっか片方でもいいんだよということで区別はできるのかなと思っていますの</p>



	で。そういった形で進んでいったらなというふうに思っております。
深田委員	ここはもう、やっぱり町民さんに絞って、いろいろ考えたほうがいいなというふうに思うのと、この温泉利用型健康増進施設で考えたときに近隣の施設のことが浮かんでくるのですが、近いところにそういう同じような施設もあるとなると、違いもないといけないと思えますし、もう三朝町は、町民を対象とし、温泉に特化するってということで、飛び抜けていろいろ進んでいったらなと思います。あれば何でもあったほうがいいと思うところです。
御船委員	最終的にはコストのことがありまして将来のことがありますから、コンパクトにまとめて、きちんといいものが長く続くようにコンパクトにしていけばいいと思います。近隣の施設にしても大きく作りすぎたから失敗しています。だから、たまわりの湯にちょっと手が入ったぐらいでいいような気がしているんです。スペースを出して、あんまり大きくしちゃったら、後の人が支払いに困るようなことはしないほうがいいなと思っています。
委員長	いろいろと将来の心配もしていただいて、大体どうやって小さくするかということ、行政が考えることが多いんですが、今回の場合は小さくということ、やはり持続していけるように機能を上手に考えていく必要がありますね。

#### 4 その後

委員長	それでは、予定している議題は以上でございますが、その他で何かありますか。
地域振興監	どうもありがとうございます。貴重なご意見、たくさんいただいたと思っております。糧にさせていただきたいと思えます。それではですね、意見をたくさんいただきましたけれども、まだまだ思いの中に持っておられるようなこともあろうかと思えます。毎度のことでございますが、後日でもいただくということ、意見書のペーパーをつけておりますので、改めてお気づきの点等がございましたら、書いていただいておりますので、助かります。どうぞよろしく願いをいたします。
委員長	皆さんの方ではありますか。
福田委員	今後の流れを教えてください。
地域振興監	計画策定を今年度の目標にしていますので、3月にはまとめたというふうに思っていますので、今日の意見を伺った中での整理をしましてお忙しいですから、年内はちょっと無理かなと思いますので、年明けをめどにもう一度、次をやりたいと思います。
福田委員	実施は7年度からですか。
地域振興監	スケジュールで言うと基本計画が今年度ということですので、今年度ということはいわゆる、うちもここでまとめたものをまた議会等に説明するという流れになりますのでそれが3月の議会かなということになると、そこで、町としての方針としての計画づくりができ、それから、いわゆるそれに基づいた実施のための、例えば施設であれば、基本設計なりを始めていくという流れになって、その後に実施設計をしてとなってくると。計画としては、今年度中に最終を作りたと思っています。
福田委員	検討委員会のメンバーの役割はいつまでになりますか。施設ができあがるまでですか。
地域振興監	基本計画ができるまでとしていますので、今年度中になろうかと思っています。

#### 5 閉会

委員長	以上で検討委員会を終了いたします。遅くまで皆さんありがとうございました。
-----	--------------------------------------